

平成9年度 まちづくり助成金 交付事業紹介

平成9年度の助成金交付に際しまして、全国各地よりたくさんのご応募を頂きましてありがとうございます。ありがとうございました。

本年度は、第1期・第2期合わせて210件の応募の中から、財団選考委員会での厳正な審査を経て、18の事業（裏面）に助成が決定致しました。その中から3事業の活動を紹介します。

「上斎原の夏にネプタイをわきおこす猪八戒」団員

上斎原神社夏祭りの宵祭りの復興をはじめ、一連の夏祭り復興のため、中国山地の人口1000人の上斎原村に20150歳代の男女10名で「製作者集団猪八戒」が結成されたのは昨年の夏である。「猪八戒」は、大蛇を現代風に復活し、夏祭りを盛り上げようという目的で、形は津軽のねぶたを見本にし、大蛇灯籠の名称も「ネプタイ」にした。これは「ねぶた」のような目をひく鮮やかなものは無理で、まあ「ねぶた」(実作地方の方言で「眠い」の意味)くらいのものでという自嘲も含まれている。「ネプタイ」から意味、そして西遊記の「猪八戒」を想像し、「製作者集団 猪八戒」の名称となった。子供たちを巻き込んで祭りを盛り上げるには愉快な名前にかかると、「ネプタイ」は資金不足から、昔組には農家からもらったパイプハウスを使い、絵柄はオリジナルの原画を元に毎夜少しずつ彩色をして完成させた。街灯から電源をひいて電球を灯して、村の伝説の絵柄を鮮やかに映し出し、好評でわざわざ見に来る人もかなりいて、昨年は神社の夏祭りは盛況を呈した。しかし「ネプタイ」は予算と技術的な問題から固定式で移動することができず、今年(1997年)は「ネプタイ」を何とか車載に!



「上斎原の夏にネプタイをわきおこす猪八戒」団員

このころは、那覇市道は、3000年の伝統を持つやちむん(焼き物)のまち。都心なのに、ガジュマルの大木、石垣、赤瓦の本道民家、スー(路地)など、ところどころに集落の雰囲気を残している。ここ、集落のメインストリート、やちむん通りで住民主体の道づくりが進められている。

昨年、那覇市が道路整備の計画を予算化したことをきっかけとして、住民たちの道づくりの取り組みが始まった。町民会、陶器組合、通り会、産物愛好会などが「産物の通りを考える会」を組織し、地域の住民に呼びかけて道の具体的な整備のあり方、素材、色、照明などを考えるワークショップを開催。住民案をまとめて市長に提出した。受け取った市側も住民の取り組みを評価し、現在住民案の考え方を基本とした道づくりを進められている。着工は来春1月、シンパツだけども月を経て風合いのよくなるという琉球石灰岩の石畳道が生まれる。

さて、「考える会」では、道路整備に平行して沿道で具体的に目で見えてわかるまちづくりをやってみようという「街並みづくりの共創」を企画。まちづくり市民財団の助成金を受け、職人のマチ、産物にふさわしい看板づくり

那覇・産物やちむん通りの看板づくり 産物の通りを考える会事務局 小野啓子

取り組んでいる。コンセプトは、手作りっぽくて、風合いの素材で、ちよっと古く、新しい感じ。鉄のフレームに木の板をはめ、照明を組み込んだかたちを考えた。

デザインにあたっては、沖縄の現代彫刻家、能勢孝二、ゆう子夫妻に協力してもらい、産物の旗(綱引きの時に地域の人が持つ旗の飾り)をイメージした装飾付きフレーム、小さなお皿を取り付け、各店舗がカラーやデザイン、自分の店らしい陶器を取り付ける案ができた。

既に設置された看板は、先行して多店舗でそれと似た作品を、実際に現場でため



我が街探検隊のメンバー

我が街探検隊の隊長は、10数年前に阪神による被害を負った車椅子の生活を送っています。初期高齢というダブルハンディを持った好奇心旺盛な人で、家族や隊員たちの心配をよそに、この夏には一人でロンドンに行った大変な冒険を遂げました。そんな隊長が、長年、勇気と意欲を頂きながら、隊員たちは、実に様々な活動をそれぞれの地域や職場で行っています。隊員には大学教授、ジャーナリスト、看護婦、教師、建築士、学生等々、バラエティ豊かで、隊長が方々に一人で出掛けては、人との出会いを作っている成果です。

どんな活動をしているのか

廃棄物の電動椅子を集めてそれをボートで修理する隊員が来るように手入れをするのです。手動の車椅子は病院や福祉協議会などから借りたり、自分で修理したりして出かけるんです。そしてこのころがこんな風に不便だねと体験したり話したりするんです。アイマスクもやって視覚障害者の体験もします。行政にも声をかけ一緒に考えます。

この度は、隊長の熱烈なラブコールが叶って、「財団法人まちづくり市民財団」から多額の助成金が頂くことが出来、高齢者疑似体験道具一式揃えることができました。貴財団に深く感謝し、活動にどんなにかしたいと努力しています。



白内障の感覚や筋力の衰え、難聴など、大きな、取り付け方を相談。現在、本書のフレームを製作中である。取り付けるのは、本島北部の林業組合で球状のフレームに、フレームに塗るペンキの色も検討している。

忘れてへんで 阪神・淡路

阪神・淡路ルネッサンス・ファンド
 は
[HAR基金]
 復興支援の第2幕へ!

発災後3年を 目前に、 復興支援の 第2幕へ!

阪神・淡路ルネッサンス・ファンド副委員長
 林 泰義 計画技術研究所所長

HAR基金は皆様の力強いご支援により、発災以来2年足らずの間に4回の公募を行い、住民や専門家による幅広い復興まちづくり活動に対し56件におよぶ助成することが出来ました。ひとえに皆様の協力の賜であり深く御礼申し上げます。

2. 一般助成の第二期支援
 本基金の助成は、同一グループには3回までを条件としています。これは初期活動を支援することによる行政の助成などを活用することを想定しているからです。しかし、中には活動の意義の高さにも関わらず行政等の支援の得られなかったものもあることが明らかになりました。これらの活動に対しては、あらためて第二期支援の位置づけを与え助成を継続することが必要であると考えています。

HAR基金の今後の活動の方向

1. 一般助成の継続
 本基金の助成は、被災者の狭いまちづくりの範囲に留まらず「市民の視点からの総合的なまちづくり」(ソフトもハードも)の重要な「市民主体のまちづくり」の重要性は、今回の大災害により、初めに社会的に認識されるに至ったものです。この領域は、復興市民まちづくりの現場では、次第に「日常的なまちづくり活動」へと移行していく状況にあります。その足跡は、日本各地の「市民主体のまちづくり」を先取りし、開拓する重要な意義を持つものと考えています。

2. 被災地等
 被災地の内、白地地区は、被災地復興の明暗がクッキリとした輪郭を描き、困難な問題ばかりが積み残される状況が顕在化しました。復興支援は、いよいよ第2幕に入ったと言われます。HAR基金としても復興の真情と過去4回の助成の内容を振り返り、今後の2年半、この困難な状況を突破する糸口を拓く役割を果たしたいと、その方向を検討したところです。以下に今後の取り組みの考え方を述べていただきます。皆様からのご助言を頂くと共に、一層のご支援をお願い申し上げます。

3. 白地地区等
 被災地の内、白地地区は、被災地復興の明暗がクッキリとした輪郭を描き、困難な問題ばかりが積み残される状況が顕在化しました。復興支援は、いよいよ第2幕に入ったと言われます。HAR基金としても復興の真情と過去4回の助成の内容を振り返り、今後の2年半、この困難な状況を突破する糸口を拓く役割を果たしたいと、その方向を検討したところです。以下に今後の取り組みの考え方を述べていただきます。皆様からのご助言を頂くと共に、一層のご支援をお願い申し上げます。

土地区画整理と整合性を保つ 細街路整備推進のため

野田北部まちづくり協議会 河合節二

野田北部まちづくり協議会は、平成5年に組織され、当初は旧市街地いわゆる下町の問題を抱えてのスタートでした。(一人暮らしのお年寄りのケアや古い空き家等)大きな活動目標として、大公園と周辺の道路(コミュニティ道路)整備を進め、事業として実現致しました。それは当時の、そしてこれからの協議会にとって大きなステップでした。折しも平成6年12月18日公園と道路整備の完成を祝し、協議会の主催でお祭りを行いました。まさか、その1ヶ月後に、あの阪神大震災を経験することになろうとは、考えてもいませんでした。

それから2年半が経ち、震災以後は、つい最近の事と感ずるのですが、あの楽しかった日は、遙か以前の事のように思えます。しかし、時間は確実に過ぎており、この間、一日も早くみんなで復興しよう、と取組みました。野田北部地区でありながら、高層ビルが立ち並ぶ第一地区土地区画整理事業に組み込まれた海運町をはじめ、壊滅状態の本庄、長楽町をそれぞれ



海運町中心点打ち式(平成9年9月)

地域型仮設LSA業務の シルバーハウジングと地域コミュニティへの応用

神戸福祉医療まちづくり研究会 代表 神戸協同病院 上田耕蔵

震災は日本の都市の窮乏を露呈したが、これに対して数々の貴重な経験が積み重ねられてきた。神戸市の地域型仮設の取り組みもその一つであるが、住宅と施設の間を埋める試みであったとも考えられる。21世紀超高齢(単独)社会に向けて、地域に支えられたあるべき「住みか」について示唆を与えてくれたと思う。我々は第2回HAR基金からの援助を得て、「長田コレクティブケアネットワーク」として地域型仮設生活支援員(LSA)の業務を分析し、「21世紀高齢者住宅へのヒント」を報告した。今年3月よりはLSAを含め「神戸福祉医療まちづくり研究会」へと発展させたが、第4回HAR助成金を頂くことができた。深く感謝する。

現在の「神戸福祉医療まちづくり研究会」の活動であるが、「公的介



高齢者住宅における生活支援員の役割

HAR基金に関する詳しいパンフレットがありますので、財団事務局までお問い合わせください。TEL 03-3234-2607 FAX 03-3234-5770

公募等の日程

11/10	第5回助成公募開始、申請受付
11/30	申請締切り
12/13	公開審査会(こうべまちづくり会館)
98/1/10	第5回助成金贈呈式、報告の会(こうべまちづくり会館)

第2回 全国まちづくり市民会議 を開催

(財)まちづくり市民財団では、7月26日(土)～7月27日(日)横浜市のパシフィコ横浜で開催された(社)日本青年会議所の97サマーコンファレンスの中で、「まち」を描く力を持つよう、日本版シビック・トラストの研究のテーマのもと、第2回全国まちづくり市民会議を開催した。パネリストとして、吉田美喜子氏(神奈川県大和市中央林間北自治会環境部会長)、立花恒平氏(赤煉瓦ネットワーク事務局長)、当財団の理事にもご就任を頂いている田村明氏(地域政策プランナー・まちづくり学会会長)の3名をお招きし、財団の塚田司理事のコーディネートで進められた「まちづくり市民会議」には、同日行われた「田村明まちづくり塾」のメンバーも加わり、総勢100名を超える参加を頂き、熱心なディスカッションが行われた。

財団法人まちづくり市民財団では、平成5年以來一貫して「パートナーシップによるまちづくり」を基本理念におき、各地の草の根のまちづくり運動を支援してまいりました。この間、英国のクラウズワーク・トラストやシビック・トラストの視察・研究をとおして、市民の市民による市民のための運動こそ、真に自立した地域を創造していくために重要であると認識し、提言してまいりました。「市民が主体的に社会やまちづくりに関与するNPOの活動が、今日の日本の社会に根づきつつありますが、今回の市民会議では、当財団の「まちづくり助成金」の対象団体でもある神奈川県大和市中央林間北自治会環境部会長の代表にもご参加を頂き、まちづくりに果たす市民行政の役割について議論を深めることができました。以下、パネリストの持論のご発言の要旨をご報告いたします。

吉田美喜子氏

中央林間北自治会では、駅前のパチンコ店の出店反対運動をひとつのきっかけとして環境部会を組織し、中央林間4丁目を魅力的で快適なまちとするために、地域ぐるみでまちづくりに取り組むことになりました。それは、単なる反対運動から脱却し、まちづくりの発想を開発して、93年に「まちづくり市民会議」を開催した。この市民会議は、市民の市民による市民のための運動こそ、真に自立した地域を創造していくために重要であると認識し、提言してまいりました。「市民が主体的に社会やまちづくりに関与するNPOの活動が、今日の日本の社会に根づきつつありますが、今回の市民会議では、当財団の「まちづくり助成金」の対象団体でもある神奈川県大和市中央林間北自治会環境部会長の代表にもご参加を頂き、まちづくりに果たす市民行政の役割について議論を深めることができました。以下、パネリストの持論のご発言の要旨をご報告いたします。

最後に市民は行政をいかに活用すべきかご意見を。Let's begin!

「まち」とは市民全体が共有のものとして自覚でき、共同利用・活用できる場の総称です。共同の場とは、(1)共同空間(共同施設)共同システム(共同サービス)共同イベント(共同文化)の総称で、これらの共同の場をつくり、働かせることが、「まちづくり」の目標であり、それには次のような基本理念を持つべきです。

立花恒平氏

全国各地には、主に明治時代につくられた赤煉瓦建物が256ものまちにあるとされています。その赤煉瓦建物の保全・活用を生かした個性豊かなまちづくりを生かしているまち活動団体があります。そして、その様な赤煉瓦にゆかりを持つ「まち」を築き、赤煉瓦に愛着を持ち、地域に根ざした個性豊かなまちづくりをすすめるために、共に行動し、考え、交流するための団体「赤煉瓦ネットワーク」をつくり、活動を展開してまいります。

田村明氏

「まち」とは市民全体が共有のものとして自覚でき、共同利用・活用できる場の総称です。共同の場とは、(1)共同空間(共同施設)共同システム(共同サービス)共同イベント(共同文化)の総称で、これらの共同の場をつくり、働かせることが、「まちづくり」の目標であり、それには次のような基本理念を持つべきです。

「中央林間4丁目まちづくり憲章」を定めました。さらに、地域の住民やその他の企業などに、このまちで建築や開発を行なう際に、工夫し、まちに調和してほしい事項をより具体的にイメージできるように、憲章に基づく協議のための「ガイドライン」をつくりました。このガイドラインでは、建築的工夫に加えて、①安全の確保②街の緑化③セットバック④街並みへの配慮⑤生活



平成9年度 まちづくり助成金交付事業

平成9年度の助成金交付事業も滞りなく実施することができました。全国各地より、第1期・第2期合わせて210件の申請があり、厳正なる審査の結果、18事業に650万円の助成金を交付致しました。

助成金 交付地

平成9年度 第1期 助成交付事業一覧

No	事業名	実施場所	助成額
1	上高野の夏に「ネプティ」をわきおこす猪八戒 猪八戒	岡山県 上高野村	50万円
2	重慶やちむん通り可並みづくりの実験 重慶の通りを考える会	沖縄県 那覇市	50万円
3	「みんなで育てよう」新川ワークショップ」 社団法人 鶴ヶ浦市民協会	茨城県 土浦市	50万円
4	庄下川昆陽川を愛する会 庄下川昆陽川を愛する会	兵庫県 尼崎市	40万円
5	地域における環境学習活動の実施 社団法人兵庫県子ども連合会	兵庫県 但馬町	50万円
6	第10回「YOU・遊・比謝川」 「YOU・遊・比謝川」実行委員会	沖縄県 嘉手納町	50万円
7	モダンde平野 モダンde平野実行委員会	大阪府 大阪市	50万円
8	バリアを探る「高齢者疑似体験」活動 バリアフリー社会をめざす「わか街探検隊」	千葉県 木更津市	30万円
合計額			370万円

平成9年度 第2期 助成交付事業一覧

No	事業名	実施場所	助成額
9	HAPPY TIME 心の交流 HAPPY TIME 心の交流実行委員会	東京都 中野区	40万円
10	山田山トンボ池復元 瀧浅グリーンボランティアの会	和歌山県 瀬田町	40万円
11	もったいないフェスティバル 明るい社会づくり創路会	北海道 釧路市	20万円
12	一歩二歩散歩小管の里歩歩家内園作成事業 小管むらづくり委員会	長野県 飯山市	20万円
13	パンフインスタレーションinおおくさ'97 おおくさ探検隊	愛知県 小牧市	30万円
14	瀬神橋・上の水庫修復保存事業 山根六郎研究会	岩手県 久慈市	40万円
15	富士山のアバタをエクホにシンポジウム ぐるっと富士山園グラウンドワーク委員会	静岡県 三島市	10万円
16	猪名川自然林保護記念誌作成事業 猪名川の自然と文化を守る会	兵庫県 尼崎市	40万円
17	ウィンターふれあいハートフェスティバル 中之島つくり塾	新潟県 中之島町	20万円
18	雲の中かまくらキャンプ体験事業 五十沢キャンプ場管理組合	新潟県 六日町	20万円
合計額			280万円

財団 ホームページを開設

この度、財団ではホームページを開設致しました。今後、皆様からのご意見をご参考に内容を充実していきたいと思っております。ホームページアドレスは、左の通り。

<http://home.interlink.or.jp/~machizkr/>

阪神・淡路ルネサンス・ファンド(HAR基金) 第4回助成対象グループ一覧 (1997年6月28日決定)

活動のテーマ	活動グループ名	活動の目的	助成金額
地域型仮設LSA業務のシルバークラウドと地域コミュニティへの応用	神戸福祉医療まちづくり研究会	地域型仮設LSA業務(1L・5-A)の業務を研究し、今後のコレクティブ、シルバークラウドや地域型LSA業務への応用	69万円
土地区画整理と整合性を保つ細路整備推進のため	野田北部まちづくり協議会*3	土地区画整理への整合性、細路整備への推進実現のため	48万円
案内機関等の他言語化にむけての調査と実態	神戸アジアタウン推進協議会*2	1.外国人観光客に対する日本語の案内提供 2. 後の魅力・個性の育成による街の活性化 3. 外国人観光客の文化体験	34万円
須磨浦地区まちづくりに向けた共通課題への取り組み	須磨浦地区まちづくり委員会	須磨浦地区まちづくりに共通する課題についての実態調査、資料収集、報告書作成など	42万円
ドラッグストア神戸震災被災地の緑の復興活動	ドラッグストア神戸	被災地の緑化活動に楽しみながら進められるシステムを提供し、今後の街づくりをすすめる。	74万円
神戸市西須磨地区における復興支援活動	コミュニティ・デザイン チーム*1*2	自治会や商店など既存の住民組織の復興活動を支援し、自治地区における復興への取り組みを促進的に進め、住民の主体的な復興活動を支援すること。	31万円
住民の自主活動による地域緑化活動	緑化コミュニティ・四季*3	震災後、荒地となったJR住吉駅～住吉川に亘る約200mの遊歩道を住民の手で緑化し、メンテしてゆく	45万円
専門家・地主・住民の連携によるまちづくりの支援	まち・コミュニケーション	住宅・生活環境が変遷している現状を具体的に把握するために、その街を企画し、住民の意向を調査することから、自治会や商店など既存の住民組織の復興活動を支援し、自治地区における復興への取り組みを促進的に進め、住民の主体的な復興活動を支援すること。	42万円
きんもくせい国際プロジェクト	阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク*1	被災地の復興にむけて、市民の力を結集し、復興のためのまちづくりの推進を図ること。	21万円
情報紙「ウィークリーニース」発行	すたあと長田*3	被災地の復興にむけて、市民の力を結集し、復興のためのまちづくりの推進を図ること。	27万円
第4回六甲アイランドW・F・O・A・Pのほり部門	リ・フォーブ・チーム	被災地復興をキーワードとした仲間づくり	27万円
みどり水のまちづくり阪神グリーンネット	ランドスケープ復興支援協議会(阪神グリーンネット)*2	みどり水のまちづくりコンサルティンク	68万円
コレクティブハウジング事業推進広報活動	コレクティブハウジング事業推進応援団*1*3	コレクティブハウジングという新しいまちづくりの推進活動	88万円
神戸の子供達に心の復興と紙芝居文化の伝承活動	神戸復興紙芝居プロジェクト	神戸市の復興の推進	37万円
コムステイシステムの提案と実践	コムステイ実践研究会	被災地復興の推進、いかにすれば、被災地復興の推進を図ること。	52万円
仮設住宅で星空映画会を	仮設住宅星空映画会ネットワーク	仮設住宅から恒久住宅への移行にむけての活動の一つとして	30万円

合計額 735万円